

# 林業現場で語り継がれる口伝

奥山洋一郎\*1、和智愛加里\*2、滝沢裕子\*1、石塚敬人\*3、寺下文貴\*3、大西布綺\*3（鹿大農）

\*1 鹿大農　\*2 鹿児島森林管理署　\*3 鹿大院農

## 研究の背景、目的

人々の暮らしや仕事の中だけに伝わる教えやルールは、過去の人々の暮らしぶりや姿勢を学ぶために必要な要素の一つと言えるが、文字として残らない限り、口頭だけで正確に後世へ伝わることは難しい。近年の技術の進歩や環境の変化に左右されることを現時点で記録して残すことに価値がある

## 調査方法

### 口伝の定義

「調査対象者が先輩や同業者などに伝えられた教え、ことわざ、格言」を「口伝」とする。調査対象者の体験談などは、その定義からは外れるが、体験談として事例を収集する

### インタビュー調査

鹿児島県、熊本県で21回、39名に調査を実施

<1>2022年10月～11月  
30名を対象、44の口伝と体験談を得た。その結果を基に口伝の分類を決定（9項目に整理）  
<2>2022年11月～2023年1月  
9名を対象、口伝の認知度を調査、また口伝情報を追加取得  
収集した口伝の認知度について3段階で評価

## 結果

聞き取り調査で得られた口伝の総数は121、体験談は7となった。

表1 調査対象者（年齢）

| 年齢  | 人数 | 年齢  | 人数 |
|-----|----|-----|----|
| 20代 | 1  | 60代 | 6  |
| 30代 | 4  | 70代 | 2  |
| 40代 | 3  | 80代 | 10 |
| 50代 | 7  | 不明  | 6  |

表2 調査対象者（地域）

| 地域  | 人数 | 地域 | 人数 |
|-----|----|----|----|
| 大隅  | 16 | 熊本 | 4  |
| 鹿児島 | 8  | 関東 | 3  |
| 北薩  | 5  | 不明 | 2  |

表3 得られた口伝

| 口伝の分類        | 個数  | 比率   |
|--------------|-----|------|
| 縁起に関する口伝     | 20  | 17%  |
| 作業中の安全に関する口伝 | 17  | 14%  |
| 山の神に関する口伝    | 16  | 13%  |
| 動物に関する口伝     | 15  | 12%  |
| 天気に関する口伝     | 12  | 10%  |
| 健康に関する口伝     | 11  | 9%   |
| 山の慣習、ルール     | 8   | 7%   |
| その他          | 22  | 18%  |
| 合計           | 121 | 100% |

### 〈口伝の断絶と価値〉

調査で、口伝を得ることができた調査対象者は、ほぼ60代～80代  
林業従事者間にかつて伝わっていた口伝やことわざは途絶えている過程

口伝を知っていた世代（60代～80代）の意見  
「働き方が変わって年配の方と話す機会が昔より減ったから」「技術が発展して科学的に解明できないことを信じなくなった」「今は検索してすぐ結果が得られるようになったから」  
一方で、山で遭遇した不思議な実体験や、自分で普段から繰り返している仕事の経験などは20代から50代の方から聞くことができ、技術の変化に伴い、新しい口伝が残っていくという兆しも。

表4 天候に関する口伝の例

|                             |
|-----------------------------|
| ①高隈山に朝、霧がかかって山が見えないときは、雨が降る |
| ②霧が流れば晴れ、留まれば雨              |
| ③西の空から風が吹いて雲が動くと雨が降る        |
| ④梅雨（ながし）は、雨7日、日7日、風7日       |
| ⑤東風るときゃ雨ぢゃっど                |
| ⑥柿の成年は大風が吹く                 |
| ⑦秋の夕焼け、鎌を研いで待て              |
| ⑧朝焼けはカップを持て                 |
| ⑨センダンの花が咲いたら、霜は降りない         |
| ⑩八十八夜の別れ霜                   |
| ⑪梅の花が下枝から咲ときゃ、そん年や晩霜が来っ     |
| ⑫朝がんだり、日のかんば                |

表5 縁起に関する口伝の例

|                               |
|-------------------------------|
| ①お葬式に行った日は山に入らない              |
| ②身内に不幸があつてから、山に入る時は塩と米を持っていく  |
| ③新しい山で作業をする入り口あたりに塩と米と酒をまく    |
| ④春分と秋分は山の変わり目なので、山に入らない       |
| ⑤春の彼岸を聞いたら木を伐るな、秋の彼岸を聞いたら木を伐れ |
| ⑥山石を持って帰るな                    |
| ⑦春と秋の彼岸は山に入らない、彼岸の中日の春分と秋分は休み |
| ⑧山石を持って帰るな                    |
| ⑨ヨキの溝の意味は身（3）は切っても死（4）なん      |
| ⑩盆の16日は、地獄の釜が開くので、仕事をしない      |



「梅雨粗期のトラツグミの鳴き声は、ガラッパドン（河童）が鳴いていると言われていた」



「弁当に梅干し：クエン酸やその他成分から疲労回復や殺菌・除菌効果。また、塩分を多く含む食べ物でもあり、作業中の熱中症予防にも」



「猿という言葉業を山で呼ぶのは忌み語とされて、様々な呼び名が見られた」



「2人で作業をするときは、後ろから叩くな：現場で急に振り返ると刃物等での事故を誘発する可能性がある」



「朝、笑って家を出ると何事もなくて、笑って帰れる…類似のものとして、朝は喧嘩をしない、というものも」

「ヤマバトが鳴くと雨：全国的に見られるものらしく、逆に鳴くと晴れると言われている場所もある」

